

自己評価報告書(最終報告)

報告者

言語系コース(国語)
／茂木 俊伸

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ. 学長の定める重点目標

Ⅰ－1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

○報告者はこれまで、本学における教員養成と専門分野(国語学)の知見とを有機的につなげる「教室につながる国語学」を提唱し、国語学担当教員間で協力しながら、授業改善やカリキュラム設計、および研究活動に取り組んできた。
○今年度は、担当授業が先導的・大学改革推進委託事業の試行授業に指定されているため、その理論的・肉付けを進めながら、授業を実施する。また、これまでの成果を踏まえ、受講者が授業内容を子どもの言語生活と結び付けられるよう工夫するとともに、自らの学びの意義を認識できるような、よりよい授業実践を行いたい。

2. 点検・評価

○学部の授業において、これまで構築してきた「教室につながる国語学」カリキュラムに沿って授業を実施・展開した。
○これらの授業の一部は、先導的・大学改革推進委託事業「教科専門と教科教育を架橋する教育研究領域に関する調査研究」の試行授業として公開し、研究検討会を行った。また、研究成果報告書の執筆にも参加した。
○前期の授業評価アンケート(学部3科目、大学院2科目)の全項目の平均点として、4.65点を得た。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

○講義内容に対する学生の疑問を適宜すくい上げながら、国語学の基本的な知識、発想法・思考法の定着を図る。また、授業外での学習活動を促進するために、日常の言語生活に関するトピックを授業で積極的に取り上げるとともに、授業中の機会や個人ウェブページを利用して、関連図書・資料の紹介を行う。
○学生との間にハラスメント行為等のない良好な関係を構築し、問題解決のための支援を行う。

2. 点検・評価

○主として学部の授業で質問用紙(講義科目)と事前指導制度(演習科目)を活用し、受講者の質問・意見をすくい上げた。また、学内の個人ウェブページに参考文献リストを掲載し、学習内容を発展させるための図書の紹介を行った。

○関連領域の担当教員間で連携しながら、学生用の図書の計画的な購入・配架を行った。

○ゼミ(学部生4名、大学院生5名)の指導教員として、学習・研究指導や生活指導、就職支援等、個々の学生に合わせたサポートを行った。また、模擬面接や論文指導等を通じて、就職関連の支援を積極的に行った。

II-2. 研究

1. 目標・計画

○専門分野である現代日本語の文法・語彙に関する研究を引き続き行い、成果を公表する。今年度は、特に語彙に重点を置いた研究活動を行う。

○共同研究や学際的研究等の機会に積極的に参加し、研究者としての役割を果たす。

○科学研究費補助金の申請を行う。

2. 点検・評価

○現代日本語の文法・語彙に関する研究を行い、テキストを含む著書2冊(共著)と口頭発表1回の形で成果を公表した。

○本学における授業実践をまとめ、論文2編(共著)と口頭発表1回の形で成果を公表した。

○国立国語研究所共同研究プロジェクト(基幹型)「コーパス日本語学の創成」の共同研究員として研究活動を行った。

○国立国語研究所共同研究プロジェクト(領域指定型)「学習者コーパスから見た日本語習得の難易度に基づく語彙・文法シラバスの構築」に新たに参加した。

○科学研究費補助金(若手研究(B))を獲得し、研究を推進した。成果は紀要論文1編およびウェブ上の文献目録として公表した。

II-3. 大学運営

1. 目標・計画

○各種委員会の委員として会議に出席し、その職務を遂行する。

○円滑な大学運営が遂行できるよう、コース・教育部・大学への協力をを行う。

2. 点検・評価

○安全管理委員会など2つの委員会委員の職務を遂行した。

○コース会議および教育部会議に出席し、校務に協力した。コースにおいては、予算管理、ウェブページ管理、広報等を含む8つの事務的職務を滞りなく果たした。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- 附属学校と連携をとりながら, 積極的に協力・意見交換等を行う。(附属学校)
- 「教育支援講師・アドバイザー等派遣事業」に登録し, 地域からの要請に応える。また, 「公開講座」の運営に参加する。(社会連携)
- 各学会委員としての責務を果たす。(社会連携)
- 大学院留学生および協定校からの短期留学生の指導・サポートを行う。(国際交流)

2. 点検・評価

- 連絡協議会(年2回)および実地教育時の訪問等を通じ, 附属学校園との連携に取り組んだ。また, 附属小学校で校内研修の講師を務めた(2011年5月)。(附属学校)
- 鳴門教育大学教育支援講師・アドバイザー等派遣事業に登録した。また, 徳島県生涯学習情報システム「まなび一あ人材バンク」に登録した。(社会連携)
- 公開講座(2011年6月)を共同担当した。(社会連携)
- 日本語学会庶務委員・情報電子化委員, 日本語文法学会学会誌委員の役割を果たした。(社会連携)
- 留学生4名(大学院生1名, 大学院特別聴講学生1名, 学部特別聴講学生2名)の指導教員として, 学習・研究・生活の指導およびサポートを行った。(国際交流)

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

- 先導的の大学改革推進委託事業「教科専門と教科教育を架橋する教育研究領域に関する調査研究」において, 授業公開と研究検討会を実施するとともに, 研究成果報告書を共同執筆した。